



内因性物質の定量 (フローサイト、Luminex及びPCR)

これまで議論されなかった分析方法による内因性物質の定量：
フローサイト、Luminex及びPCR

- 目的
 - これまで議論されなかった分析方法であるフローサイト、Luminex及びPCRを取り上げ、内因性物質定量のための測定法確立やバリデーション内容について議論する。
- 議論のテーマ
 - フローサイト：イムノフェノタイピング、CBAやビーズアレイ、占有率
 - Luminex：内因性物質の測定
 - PCR：投与物質（細胞も含む）の測定

※PCRに関しては内因性物質の測定は議論なし。



内因性物質の定量 (フローサイト、Luminex及びPCR)

- 経過報告： フローサイト
 - 免疫フェノタイピング： 真度は調べない。再現性はCVが25%以内。日内再現性は調べるが、日差再現性は調べない。安定性は少なくとも24時間は調べるが、臨床ではさらに延長する場合あり。
 - CBAやビーズアレイ： キットの場合は特異性は実施していない。添加回収は行う。検量線はREが±20%、 R^2 は0.9以上。
 - 占有率： 真度に該当するものがない。再現性はCVが25%以内。投与前のバラツキの確認は行う。薬剤の用量依存性は確認する。
- 今後： LuminexやPCRを議論予定
- 第8回JBFシンポジウムでの発表
 - 議論した結果をまとめてポスター発表予定